

幕末の志士の

さきがけ

梅田雲浜



梅田雲浜肖像（国立国会図書館蔵）

「大丈夫處世、應掃除天下」（立派な男子たるものは、世の間違った事をきれいに掃除するべきである。）と書にしたためた梅田雲浜。彼こそ幕末の志士のさきがけともいえる人物です。

梅田雲浜は、文化12（1815）年に小浜藩士矢部義比の子として小浜の城下町竹原で生まれました。8

梅田雲浜 二行書
「大丈夫處世、應掃除天下、豈事一室哉」（個人蔵）



吉田松陰やその同志たちとの交流を深めています。その目的は情報交換を主眼としていたとする史料も残されています。なお、松陰の「松下村塾」の表札は雲浜の筆によるものといわれています。

尊王攘夷派志士のリーダーであった雲浜は、朝廷側の有力者である青蓮院宮の信頼を得て活動していました。安政5（1858）年8月7日に「戊午の密勅」が下されたという情報を入手した雲浜は、小浜藩士の坪内孫兵衛に宛ててその内容を知らせました。それは、「数日後には天下は大震動することになり、旧主である酒井忠義がそのまま井伊直弼と同調しては大変危うい立場になる。放逐された浪人の身分で言えるような立場ではないが、望郷の念を思って知らせる」といったものでした。しかし、この思いは理解されることなく、小浜藩の家老から井伊直弼の腹心の長野主膳の手に渡ってしまいました。当時、京都所司代を務めていた忠義は、雲浜の捕縛には消極的でしたが、この手紙により雲浜と朝廷関係者の繋がりが決定的な証拠となったため、捕縛を決定せざるを得なくなりました。ここから安政の大獄が始まることとなるのです。

雲浜は上方物産交易の組織化のため、現在の山口県萩を訪れており、

倉藩小笠原邸に幽囚されていました。安政6（1859）年9月14日に亡くなりました。この雲浜の最後の消息を知らせたと思われる手紙が残っています。それは、小浜藩江戸藩邸の成田作右衛門から忠義の腹心、三浦吉信に同年9月2日付で送られた手紙で、「雲浜が脚氣を患い、今日明日も持たないほどの深刻な病状である」ことが記されています。もちろんこの手紙の内容は忠義にも知らされたと考えられ、小浜藩における雲浜の存在の大きさを物語っています。

関連史料・ゆかりの地

梅田雲浜先生誕生の地



梅田雲浜先生誕生の地碑



小浜藩校旧正門 順造門（現在の若狭高校正門）

梅田雲浜が誕生した千種は、小浜城下町の武家屋敷が並んでいた所です。昭和6（1931）年に矢部家の屋敷跡に石碑が建てられました。若狭高校には、藩校順造館の正門が移築されて、当時の趣を伝えています。

【住所】梅田雲浜先生誕生の地：小浜市千種2丁目（JR小浜駅より徒歩15分）
小浜藩校旧正門 順造門：小浜市千種1丁目（JR小浜駅より徒歩15分）

参考資料等

小浜市史編纂委員会編『小浜市史』通史編上 小浜市、梅田昌彦『梅田雲浜入門』ウイング出版部
小浜市教育委員会文化課編『幕末小浜藩・近代日本を創生した人々の思い』

執筆・協力

小浜市教育委員会文化課